

令和6年度 大田区立糀谷中学校 自己評価 報告書

2025/3/20

○ 本校の概要

◇東浦中、羽田中の学区変更により、昭和28年9月に開校。今年度、開校71周年を迎える。都内で8校しかない夜間学級設置校でもある。
 ◇生徒数419名、学級数13学級、教員数29名(夜間学級含む)
 ◇特色ある教育活動としては、特に次の5点が挙げられる。①大田区人権教育研究協力校として、人権感覚を高めるための取組を、夜間学級や近隣の小学校とも連携を図りながら実践している。②「いじめ防止プログラム」「職場体験」「福祉体験」など体験的な取組を重視し、生徒の自己肯定感の高揚を図っている。③地域との連携に力を入れている。特に、防災教育については、町会及び関係機関と連携した学校防災活動拠点訓練の実施を通して防災・安全についての意識を高めている。④大田区不登校対策事業実施校として、教育センターや適応指導教室、小学校との連携を図り、不登校の改善や未然防止のための取組を行っている。⑤生徒会・委員会活動、学校行事、部活動などを通して、生徒の自主性を育て、生徒主体の活動ができるようにしている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
予 測 別 目 標 な 1 未 来 社 会 を 創 造 的 に 生 き る 力 を 育 成 し ま す	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100%	①生徒による学校生活アンケートで「学習用タブレットを授業や家庭学習で有効に活用している」という間に「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合	4	◇理科の授業では、観察や実験を重視するだけでなく、指導教諭や理科指導専門員の助言を取り入れ、授業方法の仕方を研究し、生徒の探究心を育てている。 ◇美術の授業では、外部から新進気鋭の芸術家を呼び、新たな視点で作品を捉える授業を実施した。 ◇技術家庭においては、ものづくりを通して、自分で自ら構想して創造し、作り出す力の育成が図れた。 ◇数学の授業では、少人数授業を展開し、課題解決力をはぐむ授業を実施した。 ◇ICTを積極的に活用し、オクリンクプラスを使用し、生徒が自由に発言するだけでなく、他者の意見を参考に考える力や協働して問題解決する力を育てている。	A	8	評価は適切と考えます。 学習用タブレットについては、子ども達からは良い意見をきている。 体育祭、生徒発表会はコロナが明け、よりこどもたちのパワーを感じた。 STEAM教育の充実を希望します。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 100%	4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ① 82.8%	4	◇ICTを積極的に活用し、オクリンクプラスを使用し、生徒が自由に発言するだけでなく、他者の意見を参考に考える力や協働して問題解決する力を育てている。 ◇体育祭や生徒発表会を通して、クラスで話し合いや練習を重ね、問題解決を図りながら、各行事を成功させた。 ◇各教科の授業でタブレットに課題を提示し、家庭で取り組み、成果物をタブレットで提出させた。	B	1	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 88.9%	4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ② 96.5%	2	◇ICTを積極的に活用し、オクリンクプラスを使用し、生徒が自由に発言するだけでなく、他者の意見を参考に考える力や協働して問題解決する力を育てている。 ◇体育祭や生徒発表会を通して、クラスで話し合いや練習を重ね、問題解決を図りながら、各行事を成功させた。 ◇各教科の授業でタブレットに課題を提示し、家庭で取り組み、成果物をタブレットで提出させた。	C		
					89.65%(90%)	1		D		
世 界 と 目 標 な 2 が る 国 際 都 市 お お た を 担 う 人 材 を 育 成 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 72.2%	①生徒による学校生活アンケートで「ALTの授業に楽しく取り組んでいる」という間に「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合	4	◇英語の授業で、ALTによるインタビューテストや教科書のTALKコーナー等を活用し、生徒とのコミュニケーションや表現の単元で会話の機会を増やしている。 ◇英語の授業では読み、書くことにも力を注ぎ、国際社会に対応する基礎学力を付ける努力し、全員英検を実施、英語に対する力を育てている。 ◇道徳の時間や総合的な学習の時間を活用して人権教育に取り組み、生徒達が調べ発表する機会を通して、人権課題を正しく理解し、よりよく生きる考えや実践力を深めた。 ◇地元の祭礼やイベントにボランティアや部活動が多く参加し地域行事にかかわることを通して、地域に貢献する一員としての自覚を高めた。 ◇課題としては、地域の活動への参加率を高める。	A	6	評価は適切と考えます。 地域活動の活躍の場が少ないので、こどもたちにはかわいそうながさる。 Hearing,Speaking,CommunicationそれぞれのLanguageは違ってもできることは、素晴らしいと思います。 ALT教育頑張ってください。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 94.4%	4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ①90.2%	3	◇英語の授業では読み、書くことにも力を注ぎ、国際社会に対応する基礎学力を付ける努力し、全員英検を実施、英語に対する力を育てている。 ◇道徳の時間や総合的な学習の時間を活用して人権教育に取り組み、生徒達が調べ発表する機会を通して、人権課題を正しく理解し、よりよく生きる考えや実践力を深めた。 ◇地元の祭礼やイベントにボランティアや部活動が多く参加し地域行事にかかわることを通して、地域に貢献する一員としての自覚を高めた。 ◇課題としては、地域の活動への参加率を高める。	B	3	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2 72.2%	4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ② 49.9%	2	◇英語の授業では読み、書くことにも力を注ぎ、国際社会に対応する基礎学力を付ける努力し、全員英検を実施、英語に対する力を育てている。 ◇道徳の時間や総合的な学習の時間を活用して人権教育に取り組み、生徒達が調べ発表する機会を通して、人権課題を正しく理解し、よりよく生きる考えや実践力を深めた。 ◇地元の祭礼やイベントにボランティアや部活動が多く参加し地域行事にかかわることを通して、地域に貢献する一員としての自覚を高めた。 ◇課題としては、地域の活動への参加率を高める。	C		
					70.05%	1		D		
一 人 別 目 標 り が 個 性 と 能 力 を 発 揮 す る た め の 基 礎 と な る 力 を 育 成 し ま す	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 94.4%	①生徒による学校生活アンケートで「相手思いやり、尊重する態度を大切に学校生活を送っている」という間に「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合	4	◇道徳授業地区公開講座では、命の大切さをテーマを全校生徒に向けて講演会を開き、生命尊重や他者を尊重する態度について全校で考える時間を作った。 ◇従来の道徳の教科書を使用している授業だけでなく、日頃の生徒指導の中で他者を思いやる取り組みを実施している。 ◇各教科で単元が終わるごとに小テストをまとめ、テストを行うなど年間を通して、基礎学力の定着を図った。 ◇英語、数学の少人数授業を展開し、生徒一人一人の基礎学力の定着を図った。 ◇小中連携の観点から、小学校・中学校の相互の授業観察や部活動体験、授業体験を通して、小学校から中学校へのスムーズな進学を目指している。 ◇学校の特色である「いじめ防止プログラム」(1年)、「人権作文」(2年)、「福祉体験」(3年)などの学年ごとの取組に加え、社会科や家庭科を中心に人権に対する授業の充実を図った。 ◇今年度は栄養教諭が給食指導だけでなく、社会科や家庭科、保健体育の授業で食育を実施し、食を通し産地や流通、栄養、健康な体など横断的な学習に取り組んだ。 ◇保健だよりや給食だよりを通じて「早寝・早起き・朝ごはん」を啓発すると同時に、毎日の昼の校内放送を活用して食育や健康を推進している。	A	8	評価は適切と考えます。 精神と肉体を鍛錬することは重要で特に10代で基礎盤を構築していただきたいと思えます。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 94.4%	4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ① 96.0%	3	◇道徳授業地区公開講座では、命の大切さをテーマを全校生徒に向けて講演会を開き、生命尊重や他者を尊重する態度について全校で考える時間を作った。 ◇従来の道徳の教科書を使用している授業だけでなく、日頃の生徒指導の中で他者を思いやる取り組みを実施している。 ◇各教科で単元が終わるごとに小テストをまとめ、テストを行うなど年間を通して、基礎学力の定着を図った。 ◇英語、数学の少人数授業を展開し、生徒一人一人の基礎学力の定着を図った。 ◇小中連携の観点から、小学校・中学校の相互の授業観察や部活動体験、授業体験を通して、小学校から中学校へのスムーズな進学を目指している。 ◇学校の特色である「いじめ防止プログラム」(1年)、「人権作文」(2年)、「福祉体験」(3年)などの学年ごとの取組に加え、社会科や家庭科を中心に人権に対する授業の充実を図った。 ◇今年度は栄養教諭が給食指導だけでなく、社会科や家庭科、保健体育の授業で食育を実施し、食を通し産地や流通、栄養、健康な体など横断的な学習に取り組んだ。 ◇保健だよりや給食だよりを通じて「早寝・早起き・朝ごはん」を啓発すると同時に、毎日の昼の校内放送を活用して食育や健康を推進している。	B	1	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 88.9%	4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ②91.1%	2	◇道徳授業地区公開講座では、命の大切さをテーマを全校生徒に向けて講演会を開き、生命尊重や他者を尊重する態度について全校で考える時間を作った。 ◇従来の道徳の教科書を使用している授業だけでなく、日頃の生徒指導の中で他者を思いやる取り組みを実施している。 ◇各教科で単元が終わるごとに小テストをまとめ、テストを行うなど年間を通して、基礎学力の定着を図った。 ◇英語、数学の少人数授業を展開し、生徒一人一人の基礎学力の定着を図った。 ◇小中連携の観点から、小学校・中学校の相互の授業観察や部活動体験、授業体験を通して、小学校から中学校へのスムーズな進学を目指している。 ◇学校の特色である「いじめ防止プログラム」(1年)、「人権作文」(2年)、「福祉体験」(3年)などの学年ごとの取組に加え、社会科や家庭科を中心に人権に対する授業の充実を図った。 ◇今年度は栄養教諭が給食指導だけでなく、社会科や家庭科、保健体育の授業で食育を実施し、食を通し産地や流通、栄養、健康な体など横断的な学習に取り組んだ。 ◇保健だよりや給食だよりを通じて「早寝・早起き・朝ごはん」を啓発すると同時に、毎日の昼の校内放送を活用して食育や健康を推進している。	C		
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 88.9%	93.6%	1		D		

<p>学個別力・標 教4 師力を向上させます</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>100%</p> <p>4</p> <p>100%</p> <p>3</p> <p>83.3%</p>	<p>①生徒による学校生活アンケートで「分かりやすい授業が行われている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合</p> <p>4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満</p> <p>①91.0%</p> <p>②保護者による学校生活アンケートで「子どもにとって、分かりやすい授業が行われている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合</p> <p>4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満</p> <p>②82.3%</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>◇一学期の大田区の学習効果測定や全国学力調査の結果を踏まえて、授業改善プランを全教科で作成し、2学期から学力向上に向けた授業づくりを展開した。</p> <p>◇学力向上をテーマに生徒理解に基づく授業や学習意欲を高める授業、ICTの効果的な活用授業に一年間通して研修に取り組み、教員の授業力向上を図った。</p> <p>◇新規採用教員の授業観察や指導教諭の研究授業等で授業力向上を図った。</p> <p>◇研究授業を通して、教員相互で学びあい、助言し合いながら、生徒が理解しやすい授業の研究を行っている。</p> <p>◇生徒が理解できるようにICTを活用し動画や映像を見せたり、実験を行うことで生徒が視覚からはいれるように工夫した授業を展開した。</p> <p>◇教員の研修にLGBTQのテーマで夜間の教員を含めて、性的マイノリティに対する理解を深めた。</p> <p>◇6月、11月にWebQOを行い、生徒理解に基づいたよりよい授業のあり方について教員研修を深めた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>6</p> <p>2</p> <p>評価は適切と考えます。 地域や保護者がなかなか判断がつかない。</p>
<p>た個別の めら目標 の学5 くをい き支 援し ま す</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>100%</p> <p>4</p> <p>100%</p> <p>4</p> <p>100%</p>	<p>①生徒による学校生活アンケートで「先生たちは、質問や相談に親身に対応してくれている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合</p> <p>4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満</p> <p>①93.7%</p> <p>②保護者による学校生活アンケートで「子どもの学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合</p> <p>4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満</p> <p>②87.4%</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>◇週に1度、登校支援会議や特別支援会議を実施し、教員間での情報共有を行い、学校全体で対応できるように取り組んでいる。</p> <p>◇スクールカウンセラーへの相談体制を充実させるとともに生徒、保護者、教員の三者による年2回の教育相談週間を設け、きめ細かく生徒の悩みや相談にかかわっている。</p> <p>◇生活指導部会を中心に情報共有をしたり、いじめ問題だけでなく、未然に防止できるように対策を行っている。</p> <p>◇具体的な特別支援策や効果的な学びのあり方について、SCや巡回心理士に生徒の様子を観察するだけでなく、声かけや時には相談やカウンセリングを行、必要に応じてケース会議の開催や子ども家庭支援センター、児童相談所と連携している。</p> <p>◇特別支援教室を活用し、特性のある生徒がクラスで学級活動ができるように個別、小集団の支援を実施した。</p> <p>◇不登校傾向にある生徒に対し、別室での授業を行い、学習指導や進路指導等も実施した。</p> <p>◇年間3回のいじめにかかわるふれあいアンケートの実施や毎朝提出する「わすれないうさぎ」の連絡ノートを活用して、いじめに関わる早期発見や解決を図ることができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>8</p> <p>評価は適切と考えます。</p>
<p>く個別 り軟 目 まで す創 造的 な学 習空 間と 安全 ・安 心な 教育 環境 をつ</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>100%</p> <p>4</p> <p>100%</p>	<p>①生徒による学校生活アンケートで「健康や安全を大切にしている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合</p> <p>4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満</p> <p>①97.1%</p> <p>②保護者による学校生活アンケートで「学校では、施設・設備の整備・修理は適切に実施されている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合</p> <p>4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満</p> <p>②91.4%</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>◇体育祭で熱中症対策として、濡れタオルやペットボトルを凍らせたものを生徒に持参させた。</p> <p>◇毎朝管理職各学年の教員が巡回し、異変を感じた場合は、主事等と相談し、補修、修理を行っている。</p> <p>◇毎月、避難訓練を実施し、学校で地震、火災、不審者の対応について、生徒自身が身を守る方法を指導している。</p> <p>◇毎日、水質検査を行い、安全な飲料水の提供している。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>8</p> <p>評価は適切と考えます。</p>
<p>学学個別 校校別 を・目 つ家 く庭 り・ ま す地 域の 連携 ・協 働に よる 地域 コミュ ニティ の核 として</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p> <p>88.9%</p> <p>3</p> <p>88.3%</p> <p>3</p> <p>88.9%</p>	<p>①保護者による学校生活アンケートで「学校は、地域の力(保護者以外)を子どもたちの教育活動に活かしている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合</p> <p>4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満</p> <p>①63.2%</p> <p>②保護者による学校生活アンケートで「学校の様子をHP・メールや学校からの案内プリント等で知ることができる」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合</p> <p>4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満</p> <p>②88.0%</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>◇学校だよりや給食の献立を毎月1回更新するだけでなく、学校のHPや学びポケットを活用し、保護者や地域に学校の情報を発信した。</p> <p>◇登下校の見守りやPTAの挨拶当番をすることで、学校全体で生徒を見守る体制が取れた。</p> <p>◇学期に1回の地域連絡教育連絡協議会で学校の情報を具体的に報告している。学校行事の公開にPTAの協力が得られている。</p> <p>◇職場体験や福祉体験、金融授業など地域や民間企業など力を活用し、生徒一人一人に社会性や将来を見据えた力を与えた。</p> <p>◇防災活動拠点訓練に1年生全員や夜間学級の生徒、全教員、2、3年生の有志が参加することで、地域や関連機関との連携が進められている。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>5</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>評価は適切と考えます。 保護者自身がなかなか地域にかかわるのには必然。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。